

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの囁き」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親である。



1月17日、プレゼンテーションにて



独自の仕上げ「浮様」

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、また「くまモン」の生みの親でもある小山薰堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏（建築家東京大学教授）、生駒芳子氏（アッシュション・ジャーナリスト）、アート・プロデューサー）、下川一哉氏（意匠研究所）らをサポートメンバーに発足。

昨年度は、52名の匠によるプロダクトが誕生。若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、ロックフェラーハンマーのチャリティイベントへ出品されるなど注目を集め、匠自身もTVやwebメディアへの掲載など自覚正しい活躍を見せている。

2年目となった今年は、全国47都道府県から計51名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サボトメンバーや実際に工房を訪ね、途中経過のプロダクトをうけて行うエリア・コ

6年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、また「くまモン」の生みの親でもある小山薰堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏（建築家東京大学教授）、生駒芳子氏（アッシュション・ジャーナリスト）、アート・プロデューサー）、下川一哉氏（意匠研究所）らをサポートメンバーに発足。

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援



プレゼンする下尾さん

1月17日に都内で行われた商談会では、百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて半年間をかけて製作した自身のプロダクトをプレゼンテーション。

富山市八尾町で、下尾さんと夫の和彦さんが主宰する工房「Shimoo Design（下尾デザイン）」は、「潔く、合理的な、美しい日本の道具」をコンセプトに木製家具やインテリア小物を手掛ける。今回のプロジェクトでは、下尾さんが長年の試行錯誤を経て生み出した独自の仕上げ法「浮様」を施した木材に、異素材を組み合わせたサイドボード「浮様 addition（アディション）」を作った。

富山市八尾町で、下尾さんと夫の和彦さんが主宰する工房「Shimoo Design（下尾デザイン）」は、「潔く、合理的な、美しい日本の道具」をコンセプトに木製家具やインテリア小物を手掛ける。今回のプロジェクトでは、下尾さんが長年の試行錯誤を経て生み出した独自の仕上げ法「浮様」を施した木材に、異素材を組み合わせたサイドボード「浮様 addition（アディション）」を作った。

日本の伝統技法を融合 ラグジュアリーな家具に

三重・富山の匠と連携 表情豊かな仕上がりに

下尾さおり
富山／木工職人・プロダクトデザイナー



異素材とコラボ 新たな産業に



工房周辺の風景



エリア・コンサルティングにて

「浮様」とは、「浮造り」や「根来塗り」という日本伝統の木工加工にインスピレーションを得て創り出した表現方法。



夫の和彦さんと

「浮様」を守りながら新しい暮らし「TAKUMI～新しい匠～」が発表されると同時に、「伝統」を守りながら「新しい暮らし」が発表されるなど、プロジェクトも進化している。

「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。富山県選出の匠、下尾さおりさんとのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。



下尾さんの作業風景

制作過程では、下川氏からのアドバイスに、ものづくりをする上で大切な気づきがあったという。「なぜ浮様を割りたいと思ったのか。その物語を人に伝えられるようにすることも大切」という言葉にハッとしました。下尾さん。創作のきっかけは、地元の寺院が改修する際に不思議な富山県高岡市の銅器着色業「モメンタムファクトリー・オリ・オリ」の協力を得て、サイドボードの引き出しなどの底板も浮様と合う色合いに染めた。最初は異素材との組み合わせ実現させた。古くから銅器製造が盛んな富山県高岡市の銅器着色業「モメンタムファクトリー・オリ・オリ」の協力を得て、サイドボードの引き出しなどの底板

でこすって、硬い冬目を浮き立たせ、そこに牛乳の成分でもある「カゼイン」から成る塗料を仕上げている。「この技法は、タモ材の柔らかな夏目をブランチしていくモノに宿るような『美しい古道具のような時計』や『奥行き感』を表現でき」と下尾さん。言葉通り、今まで美しい古道具のような時間の堆積を感じられる、上質で高級感あるプロダクトだ。プロジェクトでは、浮様を異素材を使いながらも、朽ちていくモノに宿るような『美しい古道具のような時計』や『奥行き感』を表現でき」と下尾さん。言葉通り、今まで美しい古道具のような時間の堆積を感じられる、上質で高級感あるプロダクトだ。

夢はさらに膨らむ。「各地域の伝統工芸の素材を浮様にマッチングさせることで、素材の新しい使い方や見え方を見出し、技術の素晴らしさに触発されたりました。前板の仕上がりを見てサイドボード自体のデザインを変えるなど、伊賀組紐の技術で編まれた前板が付けられ、アクセントになっている。「浮様の色味に合うように、糸を1本ずつ指定した色に染めてもらいました。前板の仕上がりを見てサイドボード自体のデザインを変えるなど、伊賀組紐の技術で編まれた前板が付けられ、アクセントになっている。『浮様』は、まさに「浮き立つ」という言葉にハッとしたところです。そこに牛乳の成分でもある「カゼイン」から成る塗料を仕上げて創り出した表現方法。木工加工にインスピレーションを受けた『浮様』と、そこに牛乳の成分でもある「カゼイン」から成る塗料を仕上げて創り出した表現方法。

「高級ホテルに置いてもしっくりくる」など高い評価を受けた。さらに、隈氏が「注目の匠」に選び、「この木材でこんな色が出せるなんて驚きだ。触り心地もよく、ディテールの作り込みも素晴らしい」と絶賛した。下尾さんにとってプロジェクトへの参加は、次なるステージだ。これまで、プロダクトについて夫の和彦さんと2人だけで感覚的に共有していた部分が多く、作品が内包する物語を伝えることで、作品がより深く理解され、愛着を持ってもらえることに気が付いた」と笑顔を見せる。



下尾さおり
富山／木工職人・
プロダクトデザイナー
「美しい道具」をコンセプトに、日本の文化や美意識を現代のライフスタイルに落とし込むことを目的とし、主に木製家具、インテリア小物のデザイン・製作を夫婦で行う。あくまでもMADE IN JAPANを基本に、流行や時代を感じさせない「日本の美」を追求している。1998年、2001年に工芸都市高岡クラフトコンペでグランプリ受賞。



完成プロダクト「浮様 addition(アディション)」



隈研吾氏から高い評価を受ける

LEXUS
NEW
TAKUMI
PROJECT